

平成30年度平塚市母子保健事業推進連絡会 会議録

日 時 平成30年8月23日(木)午後1時25分から午後2時35分まで

会 場 保健センター3階 会議室1

出席者 中村千里委員、鈴木基委員、小清水勉委員

事務局：磯部課長、萩尾課長代理、竹埜課長代理、大内主管、佐草主査、
小山主査、古畑主査、河野主査、天瀬主査

欠席者 中村佳子委員

1 開会 平塚市健康課長挨拶

座長 中村千里委員に決定

委員及び事務局職員自己紹介

2 議題

(1) 平成29年度母子保健事業実施報告及び母子保健計画進捗状況について

(資料1-1~4)

平成29年度事業実施報告(資料1-1~4)について

平成25年から平成29年までの事業の変更点について説明する。

妊婦健診については、母子健康手帳の発行も減少しているため実施人数は減少している。しかし、妊婦歯科健診、母親父親教室の参加が平成29年度は増加している。ネウボラルームはぐくみで妊婦一人一人に母子健康手帳を発行し妊婦歯科健診や母親父親教室の案内をしているため、平成28年度と比較すると平成29年度は増加している。

相談事業について、7か月児相談は平成29年度月3回実施していたが、平成30年度は月2回に回数を減らしている。来年度実施結果を報告する予定。

教室関係について、特に大きな変更はない。

訪問事業、子どもの生活習慣病予防対策事業、永久歯の萌出事業、思春期事業、地域依頼の健康教育、健診フォロー事業等については、例年と変わらず実施している。

思春期事業については、中学校が平成28年度は4校実施していたのが、6校に増えた。他の事業については、例年と同様になっている。

資料1-2、こんにちは赤ちゃん訪問について。平成24年度から開始し平成29年度の訪問の状況について説明する。例年94パーセント前後で推移している。平成29年度は未訪問者数が100人ということで、平成28年度と比較すると増加している。理由としては、市外に長期里帰りしている方が31人と増えている。拒否、不在が増えている。その後追跡調査をすると、4か月児健診を受診している等何らかの形で把握している。

資料1-3、平成25年度から平成29年度までの健診の状況について。健診の受診率について平成29年度も大きな変化はなく95パーセント前後を維持している。3歳児健診については、平成29年度94.3パーセントとなっており、平成25年度から見ると1番高い受診率になっている。他の健診については例年とほぼ変わらない状況になっている。

資料1-3の2ページからは、4か月児健診、8～10か月児健診、1歳6か月児健診、3歳児健診の健診の所見や相談状況について。例年と変わらない状況。

資料1-3の3ページは、歯科健診について。2歳児歯科健診の平成29年度の受診率は50.4パーセントになっている。平成29年度健康課の職員が不足していたため予約者数を減らして対応したため受診率が低くなっている。平成30年度については、予約者数を元に戻し実施している。それ以外特に変わりなし。

資料1-3の6ページ、予防接種の摂取状況について。例年と変わらず、推移している。資料1-4、乳児健康診査未受診訪問結果について。健診未受診者に関しては、一人一人訪問や電話で健診未受診の状況等を確認しており、ほぼ100パーセントで、何らかの形で確認し把握している。未把握の場合は次の健診で確認をする等して対応している。

座長：質問等あるか。

小清水委員：未受診者の把握率が上がっているのはどういう理由か。

事務局：未受診者には訪問や電話等で確認している。

小清水委員：今までも電話に出てくれない等手がかかったケースがあると思うがその辺りはどうか。

事務局：こども家庭課など関係機関と連携して把握に努めている。

小清水委員：ネウボラが開設され、初期から全体が把握できて細かい密接な対応ができていように見受けられる。

鈴木委員：把握済、問題あり、フォロー（その他）は関係機関と連携して把握しているとうことか。

事務局：はい。

座長：資料1-3の6ページの予防接種について、現在定期接種は種類が増えているため定期接種は全て載せた方が良いと思われる。

小清水委員：産婦人科から予防接種について詳細を説明し受けるように勧奨している。

事務局：来年から定期接種全て載せていく。

座長：MRワクチンについてだが、麻疹単独ワクチンの接種者が4パーセント前後いるが、実績として本当に4パーセントあるのか疑問。聞き取り方の問題かもしれない。

(2) 子育て世代包括支援センター開設後の状況報告 資料2

平成29年4月にネウボラルームはぐくみが開設された。母子健康手帳の交付は以

前17か所で交付していたが、現在は「はぐくみ」のみの1か所で交付している。その際には保健師、助産師、保育士が面接をしてアンケートに沿って聞き取りや、妊娠中の健康管理や出産に向けた準備について伝えている。平成29年度の交付数は1726件。フォローの状況については、面接時に相談の中で把握してフォローしている内容と件数になる。一番多いのは未婚36件、母の精神疾患22件、10代の若年妊娠19件、経済的不安定17件というように続いている。フォロー方法は、妊娠中に電話や家庭訪問、または再度来所していただき再面接等。また、引き続き継続的に支援が必要な場合は地区担当の保健師や助産師に引き継いでいる。

母子健康手帳発行以外の育児相談について、面接というのは母子健康手帳発行時に上の子の相談をした場合や相談だけに来所する方もいる。先ほど出ていた、健診未受診の方の把握ができたりするため、必ず上の子の状況確認をしている。また、栄養士による相談もある。ネウボラに栄養士がいないため、健康づくり担当の栄養士に依頼している。

座長：質問等あるか。

ネウボラとこども家庭課と児童相談所等の連絡体制はどのようになっているか。

事務局：こども家庭課とは毎日やり取りをしている。その他、病院や児童相談所等関係機関との連携。地区担当保健師との顔合わせもしている。

小清水委員：以前から比べるとかなり、密な連絡体制がとられている。お互いの努力が感じられる。顔の見える関係があると支援しやすい。

鈴木委員：転入されてくる方等、どのように対応しているか

事務局：妊婦健診の補助券の切り替えが必ず必要なため、そこで把握している。また、ホームページにもネウボラルームはぐくみがあることが載っているため、前市町村から事前に連絡がくることがある。

座長：顔の見える関係が何かと動きやすい。

(3)平成30年度新規事業について

ア 産後ケア事業について 資料3

平成30年4月から、「産後ケアルームママはぐ」を開催している。対象は4か月未満の初産婦で、育児に不安がある方又は日中赤ちゃんと二人になりがちな方としている。現在まで8回の開催をし、延べ61組の参加であった。内容は産後の体の回復のための体操や赤ちゃんとのふれあい遊びの体験や、栄養士が作った昼食を提供、休息、仲間づくりをしている。

参加される方は、誰かと話したい、お友達を作りたい、ゆっくりしたかったということが目的で参加される。

母子分離をして過ごしてもらっているが、参加者からはゆっくりできた、他のママたちと話ができて楽しかった等感想があり好評である。今年度の開催は22回の予定

のため残りはあと14回となっている。

座長：始まったばかりだが、何か問題はあるか。

事務局：8回の開催だが、母子分離のため、精神的にも肉体的にもリフレッシュできて、アンケートでも満足度が高い。この事業を通して、褥婦をフォローして、保健センター等の事業につなげていきたい。

座長：産科にも案内がきているか。

事務局：チラシをお願いしている。対象の方がいた場合は案内をしていただくようお願いしている。

小清水委員：ネウボラができて、以前に比べ対象者のバッグボーンが把握できている。4か月までの間は、母乳をあげるにしてもトラブルが多い。初産婦だと子供と2人きりだと難しいこともあるが、この事業があればいい感じなのではないか。

イ 産後うつ予防システム

産後うつ対策については、厚生労働省も対策を求めている。背景としては虐待予防。市町村で積極的な対策が求められている。平成29年にネウボラができ、全数面接をすることにより、妊婦の約1割がハイリスク者ということが分かった。またその内容は若年、未婚、経済的困窮者、メンタル不調、知的障害がある等が分かった。平塚市の出生数が約1700人のため170人位がハイリスク者。

出産して育児をする時も、地域の保健師や助産師が訪問しているがその理由としては、母のメンタル不調が多い。そのため、事業を開始した。予防システムとしても、元々やっていた事業の中に、新しくメンタル相談を入れたり、連携管理を入れてシステムとしている。小児科、産科には医師会を通して、精神科には郵便または出向いて説明し協力を依頼した。関係者の横の連携が取れればと思っている。

中核となる産後メンタル相談については、4月からスタートし月1回、臨床心理士に從事してもらい、産後1年までの産婦とその家族を対象に相談を開催している。相談は無料で、単発の相談。運用状況は月1回半日のみ。1人当たり50分の時間を設けている。最大3人までの枠を取っている。平均して1日2ケース。相談に至る経緯は産婦自身による相談の申し込み、地区担当保健師、小児科の主治医から紹介された等。相談は複雑な方が多く、1回で終了する方はいない。全て、地区担当保健師につなげて支援している。地区担当者からは、臨床心理士からの見立てが得られることや、地域での関わり方等処遇に関するポイントやアドバイスがもらえることが効果的だと、評価を得ている。相談される方の傾向は、第1子とは限らない。産婦自身がかつて虐待をされていた、母子家庭で育つ等複雑な養育環境が心理的に影響しているケースがある。相談ケースの中には、児童相談所や警察、複数の医療機関と絡む等あり、状況に応じて各関係機関と連携を取り合っていきたい。

相談ケースの傾向としては自覚症状があって受診できる人は、精神科や心療内科につな

がる。しかしそういう場所につながらない困難ケースで、内服にためらいがある、精神科受診にハードルがある等の時に利用していただく。この事業は虐待や自殺等の予防につながっている。

連携会議について、産後うつに特化した会議。今年の3月から開始。第2回は明日開催予定。産科、小児科、精神科、平塚保健福祉事務所、児童相談所に参加していただき、情報の共有や研修等をしていく。

資料として準備した「産後メンタル相談 心の悩み相談」は健康課独自に作成した。市のホームページにも掲載している。

座長：この事業に関わっている小清水委員から一言。

小清水委員：テレビやマスコミ等で取り上げられるようなことが、珍しいことではない。

すぐ身近で起こっている。細かく連携しあうことが大切。昔と比べるとはるかに社会事情が難しくなっている。大きな問題に発展しないように食い止めなければと思っている。

座長：始まった事業でこれからお互いに情報共有し発展してもらい、以前より良くなったと言われることが望ましい。

「きずなメールプロジェクト」について紹介する。ネットでSNSに登録した人に胎児期にはほぼ毎日メール配信、出産後は2から3か月までは2・3日に1回情報を配信する。医療機関や自治体で配るというプロジェクトが始まったばかり。妊婦の孤独や心配、不安を毎日メールが届くことで和らげてあげようというプロジェクト。全国の自治体に広がっている最中。

今は何かが起こってからの相談だが、このプロジェクトは何かが起こらないようにしようという内容。

今後検討していただきたい。

(4) その他

ア 「ひらつかはぐくみ葉酸プロジェクト」について

ネウボラに来所する妊婦の約1割がハイリスク者である。そのハイリスク者は、だいたい栄養面でも問題があるということが分かってきた。この秋から、健やかな妊娠・出産を目指したサポート事業としてスタートさせたい。

目的は厚生労働省からの指導に基づき、妊娠1か月前から葉酸をサプリメント等で摂取することで二分脊椎症などの神経管閉鎖障害を予防することとしている。二分脊椎症は出生1万人につき1人となっている。平塚市の場合は出生数が年間1700人のため5・6年に1人位は生まれる計算になっている。実際7月にも本市で二分脊椎症の子供が生まれた。

母子保健事業を積極的に推進している自治体では既に母子健康手帳交付時等に葉酸サプリメントを配布するところも増えている。妊婦や妊娠を考える世代に対して葉酸

の摂取を積極的に啓発し健やかな妊娠・出産を応援する。

内容については、現時点では啓発が中心。(ア)平成30年8月から、こんにちは赤ちゃん訪問時に聞き取り調査を実施している。葉酸をサプリメントで摂取している方たちが多い。しかし、摂取し始めるタイミングが、妊娠が分かってからや妊娠中期以降。妊娠前から飲んでいる方は中々いない。第1子は飲んでいるが、第2子以降になると知らない・飲んでいないという方が目立つ。(イ)「ネウボラはぐくみ」での栄養指導。(ウ)広報・ホームページでのPR(エ)産科医療機関での指導(オ)ポスター掲示(カ)トークイベント、講演会。トークイベントについては平成30年10月23日に平塚市役所1階の多目的ホールで医師と織姫2人を呼び、葉酸プロジェクトの啓発の取り組みを行うことが計画されている。今後広報等で情報提供していく。

イ アレルギー研修会について

平成30年11月27日(火)午後2時から4時まで。保健センター2階の健康増進室でアレルギー研修会開催を検討している。講師については、国立病院機構神奈川病院アレルギー科小児科医長渡辺博子先生に依頼をしている。主にアレルギー等に接する機会が多い職員ということで、健康課や保育課の職員に周知している。また医師会、歯科医師会、薬剤師会の先生にも参加いただきたいと思っている。

小清水委員：小児科でサプリメントを勧めているか。

座長：特に積極的には勧めていない。昔から知られていることで食事をしっかりしなさいと言われていた。何かのプロジェクトでやること自体は悪くないと思う。

小清水委員：サプリメントについて産科として心配なことは、医薬品ではないため細かく精度管理がされているかというところが気になる。そのため何を勧めていいか説明がつけられない。また、摂取する時期について。子供が欲しいとなれば、1か月前から飲めばいいが、現実的には妊娠が分かってから飲むとなった時、初期だったら間に合うが、週数が経過してからでは、遅いことが懸念される。

葉酸について情報交換する。

事務局：アレルギーについて質問等あるか。アレルギーマーチを予防するためにスキンケアが大事と言われているため、そのことを学ぶ。

座長：今までは経口摂取でアレルギーが起こったと言われていたが、湿疹化した部位から侵入し悪影響が出ているという考えに変わってきている。ここ数年で食物アレルギーは皮膚からと言われるようになってきた。

アレルギーについて、情報交換する。

座長：その他質問等あるか。なし。

事務局：次年度の開催についても同時期を予定している。

3 閉会

以 上